

最初から漢字表記で学習させよ

私は、先に述べましたやうに、「最初から漢字表記で学習させる」やり方と、「初めは総てかな表記で学習させる」やり方と、その両方を、前者は昭和二十八年より三年間、後者は昭和三十一年より二年間実践し、その両方から生ずる子供たちの反応の違いを、つぶさに観察し調査して居りますから、この両者についての得失は明確に把握してあるつもりです。

だから、ここに確信を以て「社会で漢字表記をしてゐる言葉は、最初から漢字表記で学習させなければいけない」といふ事を断言して置きたいと思ひます。これは石井方式の基本原則ですが、昭和四十三年以来、幼稚園の三歳児からこの原則を適用して見事に成功してゐますので、一年生に適用するのに恐れることは全くありません。

一年生から“校舎”“講堂”の校と講の違いを教へるのでは大変だ、と思はれるかも知れませんが、然し、大抵は素直にそのまま受け容れ、やがていつとも無く自然に正しい理解へと進んで行くものです。だから、子供の方から質問されない限り、校と講との違いを教へてやる必要は無いのです。

勿論、質問されたら、説明してやるべきです。“校舎”と“講堂”といふ

表記を目にしてゐるのですから、漢字に従って説明してやれば、一年生はおろか三歳児でも納得してくれます。一年生や幼児の言語や漢字に関する能力の高さを、教育者の多くは見落してゐるやうです。その能力は大人よりもずっと高いのです。ではその証拠をお見せませう。